

## 令和元年度（2019）アサンプション国際中学校高等学校 学校評価報告書

### I 理念

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す  
～全学年が新体制になるため、「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着

### II 最重要課題

1. 入学者の確保：中学校65名以上、高等学校135名を目標とした広報戦略の強化
2. アサンプション21世紀型教育をさらに定着し充実するため、学校全体・教員個人の教育力の向上
3. 学校改革に見合った施設設備の充実

### 【学校評価アンケートの結果と分析】

#### （保護者）

学校評価アンケートの結果から、教員の服装や言動、修学旅行などの校外活動、また学校行事についてはいずれも7割以上の満足度を示しており、クラス・学年・学校単位での集団生活においては大変高い評価を得ていることが分かる。

しかし、改革2年目となった本年度、学習習慣や意欲が身につくための指導、大学受験対応、課題の量や内容など、特に学習の面で不安を感じている保護者が一定数いることが分かった。大学受験対応に関しては、「進路説明会や懇談の充実」に対する満足度が低くなっていることとの関連が見える。今後の課題として、学習指導・進路指導を発展させていくと共に、保護者への説明などを丁寧に進めていく必要がある。

#### （生徒）

学校評価アンケートの結果から見ると、不満が最も多かったのは、「学校の設備の充実」に関する項目であり、「問題への対応」「習慣や意欲が身につく学習指導」がこれに続いている。本年度のアンケートでは「問題への対応」で不満度が高く、生徒自身が問題に対応してもらえていないと感じていることが分かった。教員側の絶対に問題を見過ごさない態度と、丁寧な面談などの指導が求められていると言える。また、「習慣や意欲が身につく学習指導」は保護者でも不満度が高い項目であり、教科・学年単位での取り組みも必要となってくる。

しかし、保護者の場合と同様、修学旅行など学校行事に対する満足度は非常に高く、学年・クラスへの満足度と共に7割を越えている。また、進路を考える行事についてもやはり満足度が7割を越えており、うまく学習指導に繋げることができる余地があることを示している。

#### （教員）

学校評価アンケートの結果から見ると、8割以上の教員が「学校の教育理念・方針を十分に周知している」と回答しており、「丁寧で分かりやすい授業に努めている」でもほぼ同様の数値となっている。また、「職務にふさわしい服装、行動、態度」に対しても8割を越える教員が肯定的回答を行っている。ほとんどの教員が本校の理念を理解して周知しながら、自己の授業力向上を目指していることが分かった。

しかし、「大学受験対応」や、「進路説明会・懇談の充実」に関しては肯定的回答が3割を切り、保護者が不満を感じている部分と一致している。教員側がそう感じている限り、保護者が同様に感じるのも当然であろう。今後、保護者への説明会の充実、丁寧な懇談などの面を実現していくことで、保護者の満足度の回復が望めると考えられる。

また、「修学旅行などの校外活動」、「学年・クラス運営」、「学校行事の充実」などは、いずれも肯定的回答が半分に満たないが、これらは全て、保護者・生徒共に満足度の高い項目である。その項目が不一致である理由は不明であるが、いずれにせよ教員側が肯定的に評価できる内容で実施でき

るようになれば、保護者・生徒側の満足度もさらに高まるのではないかと考えられる。  
 今後、アンケートで明らかとなった具体的な取り組みの部分に注力し、さらに新教育改革の実現を、教職員一丸となって継続して進めていく必要がある。

### Ⅲ 本年度最重要課題に対する施策、及び自己評価

最重要課題	今年度の重点目標 (Plan)	具体的な取組計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
1 入学者の確保・広報戦略の強化	(1) 中学校65名 高等学校135名 を目標とした広報戦略の強化	1)Webページによる情報発信力の強化	ア)紙媒体によるイベント告知からWebページへ誘導する流れを確立する。  イ)Instagramによる様々な学校情報の発信  ウ)広報戦略会議の小・中高連携	ア)結果：○ 各イベント毎のチラシを作成し、Webページへと誘導。  イ)結果：○ 学校ブログに加え、学校のInstagramを開設することで、より簡単に広く本校の情報を発信した。現在のフォロワー数は約300人。  ア)結果：△ 入試広報部長と入試広報室職員が入試連絡会議に参加することで、ある程度の情報共有ははかれたが、併設小学校からの入学者の減少を見ても、さらなる連携が必要。
		2)説明会の目的を明確化と内容の充実	ア)「生徒を見せる」企画の立案  イ)イベント回数の増加	イ)結果：○ 在校生、卒業生による学校説明、生徒による歓迎パフォーマンス、手伝い生徒の起用、公開授業の実施など、いずれも参加者に高評価を得た。  ア)結果：○ 学院単位で行われるチャリティ・デーにおいて、ミニ学校説明会を実施
		3)内部満足度の向上	ア)修学旅行・生徒会行事の活性化	ア)結果：○ 高校修学旅行の行き先に海外（ポーランド）を加え2年目となったが、前年度よりもポーランド希望者が増加した。また、生徒会行事の活性化により、学校評価アンケートでは保護者・生徒共に修学旅行などの校外活動・学校行事に対する満足度は高い評価を得た。
		4)入試制度の改善	ア)トイレによる途中退室を可とするように変更  イ)中学入試結果  ウ)高校入試結果	ア)結果：○ トイレによる途中退室を可能とするように変更した。  イ)結果：△ 中学入学者は52名（外部43名＋内部10/24名）であり、一般入試入学者は微増であったが、内部進学者の人数は減であった。  ウ)結果：△ 高校入学者は91名（外部63＋内部

				28/30名)であった。帰国生入試が大幅に増加し、内部進学率は高かったが、専願者の人数は減であった。
2 教育力の向上	(1) 21世紀型教育の定着と充実に向けての教育力向上	1)英語イマージョン教育の充実	ア)分掌内にイマージョン部を独立化  イ)オリジナル教材の製作	ア)結果：○ イマージョン部を独立させ、12年計画を推進。  イ)結果：○ 高校理科・数学については日本人教員とネイティブ教員の協力でオリジナル教材を制作した。今後も学年進行で整備予定。
		2)PBL教育の推進	ア)分掌内にカリキュラムマネージメントを独立して設置	ア)結果：△ カリキュラムマネージメントを中心として、外部有識者と共にコアメンバーが公開授業を行い、その成果をもって全体の教員研修で共有した。理解や普及は進みつつあり、様々な工夫を凝らして授業を行う教員も増えたが、全教科で広く浸透したとは言い難い。また、内容や頻度において更なる深化が必要。
		3)ICT教育の充実	ア)ICT支援員の設置	ア)結果：○ 学院内にICT支援員を置き、教育機器として全生徒にiPadを導入。それに伴い、学校全体のLAN環境整備やサーバ構築など、環境整備は大幅に進んだ。ICTを活用した授業の研修も行い、着実に普及しつつあるが、生徒個別の端末の活用について、更なる深化が必要。
		4)グローバル教育の充実	ア)国際交流プログラム・短期留学の充実  イ)語学検定など、資格取得の推進  ウ)海外進学を意識したイベントの充実と実績	ア)結果：○ 分掌内に「国際交流センター」を独立して設置し、国際交流・留学を一括して担当。  イ)結果：○ ほとんどが希望者実施ではあるが、英語検定、GTEC、TOEFL、フランス語検定、DELFDALF、硬筆・毛筆検定、漢字検定などの受験を積極的に勤めることができた。  ウ)結果：○ 高校生向けに、海外進学・留学説明会を実施したが、本年度は海外大学へ進学した生徒はいなかった。
		5)進路実績の向上	ア)関西学院大学との教育連携強化、指定校推薦枠を利用できる生徒の増加	ア)結果：△ 高1・高2向けに、関西学院大学訪問を実施。また、本年度、指定校推薦枠を利用して進学した生徒は39%にのぼった(関西学院大学へは6名)が、関学の協定校推薦枠、その

			<p>イ)受験による進学実績の向上</p> <p>ウ)「個々の能力にあった教育」</p> <p>ア)初任教員に対する教科指導教員制度を設置</p> <p>イ)若手教員向けの教員研修の充実</p>	<p>他難 関大学の推薦枠も余りが出た。</p> <p>イ)結果：△ ほとんどが指定校推薦・公募推薦・AO入試などで進学しており、一般入試で進学したのは9名のみ(12%)。国公立大学には2名が進学している。</p> <p>ウ)結果：○ 生徒数・クラス数の増加の中であっても、担任・学年団を中心として生徒一人一人に寄り添い、個々の能力や性格にあった教育を提供できた。</p> <p>ア)結果：○ 勤務5年以内の教員に対して、授業力向上のための教科指導教員を設置し、個々の教員の授業力向上に繋げることができた。</p> <p>イ)結果：△ 相互の授業見学などの機会は設定出来たが、教員研修を行う機会は少なかった。</p>
3 施設設備の充実	(1)学校改革に見合った組織と施設設備の充実	<p>ア)中高男子サッカー部長期計画</p> <p>イ)教室の整備</p> <p>ウ)環境の整備と充実</p> <p>エ)小学校との連携</p>	<p>ア)中高男子サッカー部についての長期計画を検討する</p> <p>イ)クラス数増に見合った教室の整備</p> <p>ウ)部室、更衣室、ICT環境等の整備と充実を行う</p> <p>エ)様々な面で、併設小学校との情報共有、連携を行う</p>	<p>ア)結果：△ 2020年度には中高共にサッカー部が3年生まで揃い、2021年度は高校へ内部進学する生徒も存在する。クラブ活動運営上のキャパシティも踏まえ、長期計画の策定を目指したいが、本年度はその段階まではいかなかった。</p> <p>イ)結果：○ 中学校全学年3クラス、高等学校全学年4クラスに対応できる教室を整備した。</p> <p>ウ)結果：○ 生徒数・クラス数増に対応するためのICT環境、更衣室、部室の整備を行ったが、特に部室に関してはサッカー部の部室が部員数に対して狭くなることが予想され、今後の整備が必要</p> <p>エ)結果：△ 中学校・高等学校の校長が小学校校長を兼ねる形で情報共有・連携を目指し、一定の成果はあったが、現場同士での連携など困難な部分も多く、さらなる深化が必要</p>